

た。2022年、94歳の大往生だった。レイさんは「祖母は気丈に、前向きに生きた」と語る。

◇切り絵で歴史伝承

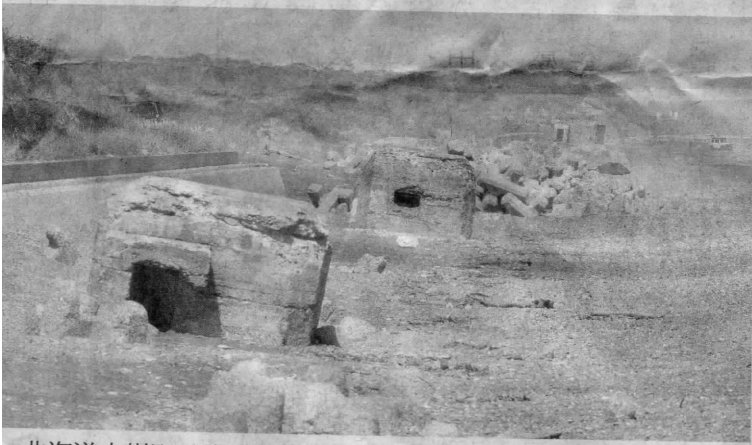
書道や墨絵をたしなむ昭子さんを見て育ったレイさんは芸術家になった。日本人移民の歴史について調べるうち、第2次大戦時に約4000人の日本人が強制収容・送還された悲劇を知る。多くはサトウキビ栽培や真

珠養殖に従事していた。

移住の中心地だった北東部タウンズビルで、レイさんは6月、日本人移民をテーマに切り絵展を開催。真珠養殖の過酷な潜水労働などを和紙で繊細に表現した。レイさんは「歴史を知りただけでなく、感情で受け止めてもらいたい」と次世代への伝承に意欲的だ。（タウンズビル＝豪州＝時事）

戦争の歴史を 伝えるトーチカ

北海道大樹町



北海道大樹町の海岸に残された旧日本軍のトーチカ。トーチカは4×6mの長方形。コンクリート製の内部は数人が入れる広さで、射撃のための小窓「銃眼(じゅうがん)」が設けられている。太平洋戦争末期の1945年、米軍の上陸に備えて造られ、道内で発見された

トーチカ101基のうち、26基が同町に現存する。日本建築学会北海道支部歴史意匠専門委員会の小野寺一彦さん(67)は「トーチカは80年の風雪、高波の浸食によって地中から姿を現した。日本で戦争があったことを伝えてくれる貴重な遺跡」と話した